

過疎地域における自治体・住民・専門家・事業者の協働による ユニバーサルデザインのまちづくり

代表 大塚 毅彦（国立明石工業高等専門学校建築学科 助教授）

〔研究報告要旨〕

本研究は、兵庫県民局但馬長寿の郷（以下、但馬郷とする）および兵庫県但馬地域を主な研究対象に、「過疎地域における自治体・住民・専門家・事業者の協働によるユニバーサルデザインのまちづくり」について、以下の研究をおこなった。①但馬郷の保健師、作業療法士（OT）、理学療法士（PT）などの福祉部門が中心となり、市町のOT、PT支援や家具メーカー等の協働による住宅改修（バリアフリー）及び住民・専門家（建築家）・事業者を対象としたバリアフリー啓蒙事業について、②高齢者の生きがい・社会参加として、「高年齢者の能力を活用した福祉用具（踏み台）作成等支援」について、③地元地場産業（家具産地）の事業者と但馬郷の「高齢者・障害者用福祉家具開発」について、さらに、④今後の補足研究としてバリアフリー整備された既存建築物（文化財）の利用者（拝観者）による事後評価の事例として、兵庫県宝塚市にある中山寺をケース・スタディとして取り上げ、アンケート調査を実施した。

以上の研究から、次のことが明らかになった。

- ①但馬郷のセラピスト 12 名ら各市町などの広域への派遣は、住民のバリアフリー意識の啓発、各市町のOT・PT支援、バックアップなどの連携を深め、安心して住める住まいづくりに関する機会が出来たこと。また、住宅改修研修会は、建設事業者へのスキルアップ、建設事業者と地域ケア従事者との連携が図れるようになっている。
- ②高齢者の福祉用具（踏み台）作成支援事業は、地元シルバー人材センターからの高齢者派遣、家具メーカーの技術支援、但馬郷の企画の協働研修作業により、高齢者自らが福祉家具の製作技術者となり、あるいは過疎地域で不足するバリアフリー整備のための人材となり、地域での生きがいづくり、安心して暮らせる地域づくりに寄与している。
- ③地元家具メーカーによる福祉家具は、住宅改造や福祉用具利用の際の補完的存在であり、部分的ではあるが簡単にバリアフリー化でき、今後様々な活用が期待できること。